

## 令和2年度第2回花巻市立図書館協議会 会議録

### 1 開催日時

令和2年11月11日（水） 午前10時00分～午後12時20分

### 2 開催場所

花巻市立花巻図書館 会議室

### 3 出席者

#### (1)委員（11名）

佛川恒明委員、阿部久幸委員、堀合範子委員、中里美香委員、  
高橋則子委員、佐々木さつき委員、熊谷恵委員、坂本知彌委員、  
佐藤三恵子委員、及川智子委員、小笠原智恵子委員

#### (2)事務局（9名）

市川生涯学習部長、菊池生涯学習課生涯学習係長、梅原花巻図書館長、  
小原大迫図書館長、火石石鳥谷図書館長、菊池東和図書館長、  
久保田花巻図書館副館長、伊藤花巻図書館業務係長、黒澤石鳥谷図書館主査

### 4 欠席者

1名（藤田甲之助委員）

### 5 傍聴人

3名

### 6 議題等（議事録）

#### ◎会議成立の報告（久保田花巻図書館副館長）

- ・委員12名中11名出席。出席委員数が構成委員の過半数を超えているので、花巻市立図書館協議会規則第7条により、本会議が成立することを報告。

#### 1 開 会（久保田花巻図書館副館長）

#### 2 あいさつ（坂本会長）

おはようございます。新聞等でいろいろ書き込みがありましたけれども、多くの市民の意識が図書館へ向いたことは大きな進展だと思っております。みんなが

注目すれば、新しい図書館ができたときにみんなが利用してくれるだろう、そのように思っております。ですから、市には、広く市民の声を反映させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

協議会の皆様のますますの御協力をお願いいたしまして、挨拶にさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(○久保田花巻図書館副館長)

ありがとうございます。それでは協議会規則第6条によりまして、議長は会長となりますので、以後の進行よろしくお願いいたします。

(○坂本会長)

それでは、早速議題の1番目「令和2年度花巻市立図書館の事業実施状況等について」事務局よりご説明をお願いいたします。

### 3 議 題

#### (1) 令和2年度花巻市立図書館の事業実施状況等について

- ・令和2年度花巻市立図書館の事業実施状況について、（令和2年9月末までの実施状況を）花巻図書館から順番に各館が説明。

花巻：伊藤業務係長、大迫：小原館長、石鳥谷：火石館長、  
東和：菊池館長

(質 疑)

(○坂本会長)

ただいま事業の状況等を説明していただきましたが、これに関してご質問ございませんでしょうか。

随分新型コロナウイルス感染症対策で中止が多いですね。利用者の方々も1けた以上数が違いますね。新型コロナウイルス感染症が早く終息してくれればいいなとみんなが思っているところですけども、図書館は特に影響が大きいのかなと感じました。

(○中里委員)

お話を聞いていてどうなのかなと思ったのですが、各図書館で企画図書展を開催していて、そのテーマごとの来館者数が載っていますが、各図書館では、このテーマだったから来館者数が多かったのか、それとも例えば夏休みで本を借りに来た子どもが多かったから来館者数も増えたのか、そういうような来館者数とそのテーマとの関係性をどういうふうに捉えているのかお聞きしたいと思います。

(○伊藤業務係長)

各図書館の企画図書展の来館者については、その時期によっていらっしゃる人数が異なりますので、そちらの影響は大きいと思っております。ただ、いられ

やった方から「この展示が良かったよ」というご意見をいただくことが多い場合は、また次の年も同じ企画展をというように検討させていただいています。

(○坂本会長)

ほかにはございませんでしょうか。それでは、御意見は。

(○小笠原委員)

本題からずれるかもしれませんが、図書館を利用して本をゆっくり読みたいときに、テーブルの提供など今の図書館4館の実態はどのようなものなのでしょう。孫を連れて行っても、どこで絵本を見せたらいいのか分からないというか、どこも座ってはいけなと言われるし、絵本も重いし。絵本を見るとか、そういう利用の仕方がこれからどんな方向に向いていくのかということを知りたいと思います。よろしくお願いします。

(○梅原花巻図書館長)

お答えいたします。今どうしても新型コロナウイルス感染症対策の関係で、皆さんに御不便をおかけしているのですが、図書の閲覧については、お名前と連絡先をお聞きしたうえで隣とは仕切りを設けた状態で閲覧席の利用を再開しております。ただ、花巻図書館でいえば、こども室のカーペットのところは、本を選ぶために本を広げて皆さんに読んでいただくぶんには構わないのですが、長時間、お子さんに読み聞かせいただくことは、申し訳ありませんが御遠慮いただいておりますので、小さいお子さんが座るような椅子は置いていないところがありますが、県内でも感染者がでておりますので、花巻市で定めている施設の新型コロナウイルス感染症のレベルに合わせた利用方針に基づき、市立図書館については、本や新聞の閲覧は、当面今のように席を決めさせていただき、お時間を区切ってではありますが利用いただきたいと思います。ただ、本などの閲覧や学習室の利用については、利用者が多くないときには、午前中といった単位でお使いいただいているところです。

この状況がいつまで続くのかというところは、まだ先が見えない部分ではありますが、その時々で、感染症ですから感染するリスクもございますので、対策を考えながら、そのなかでも利用者の方になるべく良いサービスを提供できるように検討していきたいと思っておりますので、すみませんがよろしくお願いいたします。

(○坂本会長)

ほかにごございませんでしょうか。

それでは、議題の2番目に移ってよろしいですか。はい、それでは議題の2番目「新花巻図書館整備について」お願いします。

## (2) 新花巻図書館整備について

- ・新花巻図書館整備について、市川生涯学習部長が資料に基づき説明。

### (○市川生涯学習部長)

それでは新花巻図書館整備について、私から説明をさせていただきます。まず資料No.2「新花巻図書館建設場所の検討状況」についてご説明いたします。

この資料につきましては、10月15日の議員説明会において、市議会議員の皆様にご説明いたしまして、その際の議員の皆様からの御意見を含めて修正いたしまして、このほど10月25日で終了いたしましたワークショップでも説明した資料でございます。1枚めくっていただいて、2ページでございますが、建設場所の候補地について、これまで考えてきて、皆様方にも御説明してきた中で、いろいろな条件など変わってきているところもありまして、最新の資料がこれということでございます。大きく分けまして二つの区域、まなび学園周辺といたしましては、1番が営林署の跡地駐車場の場所です。2番がまなび学園の前、まなび学園の駐車場と芝生がある場所です。3番が、総合花巻病院の跡地、今は建物がありますが、旧総合花巻病院です。もう1か所が花巻駅周辺という中で、4番はJR用地、これはスポーツ用品店がある場所です。5番は、花巻駅南駐車場、なはんプラザの東側となっております。この場所を候補地にしているという前提と背景というように書いておりますが、3ページ目、これまでも御説明をしてきておりましたが、花巻市立地適正化計画という、市の中心市街地にコンパクトシティーをつくっていかうという計画がありまして、その中で、都市機能誘導区域を定めています。都市機能誘導区域は青いラインの内側というふうに定めておまして、この都市機能誘導区域に建設する場合には、国の補助金が受けられる可能性が高いということから、この青い線内の区域内に検討してきたという経緯がございます。4ページ目でございます。その背景として、先ほど申しあげました①花巻市立地適正化計画、平成28年6月ですが、この段階においては、生涯学習都市会館まなび学園周辺への移転を候補地として、この計画上はあげております。次の②新花巻図書館整備基本構想、これは平成29年8月ですが、図書館協議会の皆様方にも見ていただいて、基本構想では建設場所に関する方針として、都市機能誘導区域に整備するというふうに定めたものでございます。次に③花巻市図書館複合施設等整備方針検討業務を平成29年度から30年度にかけて委託して行っておりまして、これが「UR報告書」ですが、URで調査してもらったものでございます。この中で事業候補地の抽出を行ってございましたが、都市機能誘導区域内にある程度まとまった土地の確保として、花巻駅東口周辺及びまなび学園周辺というところの報告を受けているというものでございます。先ほど説明した3ページですが、この立地適正化計画の都市機能誘導区域、青い部分につきましては、国

の補助金を受けられる可能性がある場所でありまして、補助金の額は建設費の2分の1で最大で10億5,000万円の補助が可能というものでございます。

次は5ページになります。5ページと次の6ページにつきましては先ほど申しました③の「UR報告書」で、図書館の候補地として検討した場所、今まで申し上げましたスポーツ用品店の場所(A-1)、花巻駅南駐車場(A-2)、まなび学園の前(B-1)、営林署の跡地(B-2)、総合花巻病院跡地(B-3)という場所を報告しているというものでございます。

7ページでございます。7ページは新花巻図書館複合施設整備事業構想、今年の1月29日に市議会の皆様に御説明いたしまして、図書館協議会の皆様方にも御説明いたしました。新しい図書館協議会委員の方もいらっしゃいますので再度確認をいたしますが、花巻駅前のJR東日本が所有する土地、スポーツ用品店の敷地を50年間借りて、新しい図書館と複合施設を建設するという構想です。これは市が出資するまちづくり会社と特定目的会社、SPCと言うのですが、そういう特定目的会社をつくりまして、それによる公民連携事業を計画したものでありまして、花巻図書館と賃貸住宅、テナントを入れての複合施設で、広場等の整備と南駐車場の立体駐車場化もしたいという、花巻駅周辺市街地の定住人口の増加にも資するものとして、検討をしたというものでございます。ただし、この構想につきましては、入居者数とかテナントがどれだけ入る可能性があるか、建物は特定目的会社SPCが建設して、図書館部分は市が所有する、賃貸住宅やテナント等は特定目的会社が所有するというような構想でして、特定目的会社が所有する部分の資金は、花巻市の保証なしで金融機関から借りて、建物を建てることなのですが、そのような資金調達方法とかですね、事業の具体化というのは、外部の専門家をお願いして調査する必要があるものでございます。この構想につきましては、反対の意見が多数あるというふうに考えておりまして、この調査のための予算は今年度計上しておりません。よって、具体的には全く決まっていないという状況でありまして、市としても市民の理解が得られない状況であれば、賃貸住宅等の併設については見直しも考えているというものでございます。そのような点を含めましてこれまでの経緯を8ページ以降でございますが、花巻駅東口周辺、このスポーツ用品店の敷地につきましては、JR東日本と交渉をしまして、2018年12月の新聞に「駅周辺のにぎわい創出、駅利用者の利便性向上につなげるために、鉄道事業者としても協力していきたい」というJR側でも協力していきたいという意向、また、2019年12月には、「JRからは土地を賃貸借する方向で協力したいとの意向」、翌年の1月29日の新聞には、先ほどの事業構想時、「50年間の定期借地で賃貸することにより花巻市のまちづくりに協力」したいというようなことを書いております。

次の9ページですが、市民からの反対意見があるというように考えておりました、場所自体まなび学園等のほうが良いというような意見、右側には同じく新聞で、これは市議会が開催した意見交換会のアンケート結果ですが、まなび学園周辺が望ましいという回答が60%となっております。あと、土地をJRから借りることに対する意見、あるいは賃貸住宅との複合化に対する反対意見があると考えております。JR東日本との協議の状況ですが、JRの用地、その場所を市が利用する方針が確立されない限り、定期借地や土地利用の条件についてJRと具体的な協議はできないというように考えております。1枚めくっていただいて、10ページですが、現状の分析としてJRの用地につきましては、市民からの意見の確認が必要だと考えておりました、JR用地、またはまなび学園周辺、あとは賃貸住宅等複合化、または図書館単独、土地の定期賃貸借、これについては土地代金がかかって、ずっと関わってくるわけですが、それらの課題、または所有権を取得、つまり購入をするなど、市民からの意見をまとめなければならないというように考えております。一方ではJR東日本と土地利用の条件についての協議、合意も必要と思っておりますが、市民の望む条件でJR東日本と合意できるかということは現時点ではまだわかりませんので、JR用地以外の場所でも検討が必要だというように考えております。花巻駅周辺でもう1か所、市所有土地、花巻駅南駐車場の場所というのがありますが、これについては、市営駐車場がなくなる、その部分について市民からの理解を得ることが必要であろうということですが、また、現段階で新しい図書館の想定している最大規模としては4,500平米程度と考えているのですが、これをつくるには、駐車場の場所だと2階で賄い切れないので一部3階になってしまうかなというように考えております。いずれ現在のこの駐車場がかなり使われているという状況ですので、花巻駅に一番近いこの駐車場をなくすことは、かなり課題かなというように考えているというものでございます。

次の11ページは交通・アクセスということですが、まなび学園周辺についての考え方を書いております。まなび学園周辺の大きな課題としては、南側の道路、城内大通線、あるいは城内大通り一丁目線があるのですが、これは後ほど図面で御説明いたしますが、歩道がないなどの課題があります。次、12ページです。まなび学園周辺の概要としては、まなび学園自体、耐震改修等、今年度も壁面を改修いたしまして、今後20年程度は使いたいというように思っておりますが、いずれ建て替えが発生するだろうということでございますし、総合花巻病院等の用地やまなび学園等を含めた土地活用のあり方というのは一段の、やはり中心市街地のまとまった土地であるので、そこを考えなければいけないと。総合花巻病院跡地は、急傾斜地等でもありまして、平場の確保が課題になるとかですね、バスと

かですね。現在ある中央振興センターも解体の処分が必要となるというようなことが「UR報告書」、先ほど申した段階での報告で出されているというものでございます。13ページには道路について書いておりますが、これは後ほど図面で御説明いたします。

次に資料No.3をご覧くださいと思います。資料No.3の1番が「総合花巻病院跡地」に建てた場合ということです。先ほど申しましたとおり、図書館の延べ床面積を仮にですが4,500平米と想定しております。これは以前、花巻中央図書館基本計画、厚生病院の跡地に図書館を建てるという計画がございまして、そのときにつくった基本計画の中で図書館部分の延床面積が4,300平米から4,600平米というように想定しておりました。あと、一関図書館が4700平米ほどございまして、それらの状況を見まして、4,500平米程度かなということで仮に設定した数字でございまして、それで「総合花巻病院跡地」ですと、先ほど申しました平坦部、平らな部分、南側道路のすぐの前の総合花巻病院の玄関あたりの建物は地下に構造物がございまして、これを壊してしまうとかなり窪地になってしまいます。そのために、そこに建物を建てるのは少し難しい状況になっておりまして、奥のほうが平坦部として建てられるのではないかというものです。右側のほう、南北に緑色でラインを書いている部分がありますが、これは昔の花巻城の堀の跡になっていまして高低差がやはり5mから10mほどある部分ですので、ここをなだらかにして建物を建設できるような距離をとると、このような距離になるというものでございます。「総合花巻病院跡地」ですと、左側の整備計画でいろいろ書いておりますが、駐車場もこの程度できるのではないかと、花巻駅まで徒歩13.5分ぐらいかかる距離というようなこととか、いろいろな条件が入っておりまして、一番下に建設スケジュール、「総合花巻病院跡地」であると、令和9年度、令和9年4月に新図書館のオープンというのがこのスケジュールの案でございまして、

次に1枚めくっていただいて、「まなび学園体育館」です。「営林署跡地」も考えていますが、営林署の敷地だけでは少し狭いということがありまして、体育館を壊して建設したらどうだろうかという案でございまして、これですと体育館を壊せば、3階建てで4,500平米をこのような形でとれますが、メインの駐車場は総合花巻病院の跡地を全部駐車場にするという想定です。課題としては、左側の特記事項などには書いておりますが、体育館の利用が今かなりございまして、この体育館を壊してしまうと、ほかの場所に体育館を建設しなければいけないということがございまして、あとは、この営林署の横に市道吹張花城町線、青いラインを書いているところです。ここは歩道がございませぬので、ここも歩道をつくらなければいけないと考えておりますが、旧南高校の入り口に松並木がありまして、ここに歩道をつくる場合には松の伐採をしなければいけないというのもあり

ます。

次に3ページ目です。「花巻営林署跡地①」というものです。営林署跡地に図書館を建てた場合どうなのかという案でございます。二階建てにするにはやはり少し狭いと先ほどもお話ししましたが、この①案は（次の②案も含めて）、どちらも市道吹張・坂本町線という、いわゆる掘割という道路がありまして、昔、掘割商店街があったんですけれども、この幸橋の下の道路、一日市・坂本町から上がってくる道路ですね、その部分をグレーに塗ってありますが、用地を買って、擁壁をつくると。つまり斜めに壁をつくって、少し営林署跡地の敷地を広げた形で、建物を建てるという案です。なおかつ、市道花城町北線とこの建物の南側に書いていますが、先ほどの掘割から登ってくる道路があるのですけれども、この道路も埋めてしまって、敷地にした場合というものです。ただし、この道路を埋めてしまいますと別に道路が必要ですので、左下に新設道路（花城町北線代替）と青い線で書いている道路があります。旧中央公民館があった場所に道路をつくって上に上がっていくようにしてはどうかという案なのですが、これだと交差点がa b cと書いていますが、交差点が少し複雑になって交通に支障があるだろうというような課題があると思っております。次の「花巻営林署跡地②」は、先ほどの下の掘割から上がってくる道路は埋めずに、擁壁を立ててつくった場合の案ですが、これだと少し窮屈な感じになるんですね。そのような試算をしております。ちなみにこのように擁壁を建てたり、道路を埋めたり新設したりとなりますと、工程としてはやはり時間がかかりまして、オープンは令和10年だろうというような計画です。

次に「まなび学園前」というものです。まなび学園の今の駐車場と芝生広場のところに建てた場合はどうだろうかというものです。この場所は、やはりまなび学園の前ですから、日当たりが悪くなるのではないかという課題がありまして、それらも考慮して、少し南側のほうに寄せて、南側の日当たりも考えつつ、まなび学園の利用もできるということを考えながら、配置してみたというものでございます。これですと、今の駐車場はなくなりますが、病院跡地を全て駐車場にするという形になりまして、なおかつオープンは令和8年4月だろうというものでございます。ただし、1枚めくっていただいて「参考図：まなび学園前」をつけております。これは、まなび学園の建物は今後20年程度は施設の長寿命化のため改修をして使える見込みですが、20年程度経過した以降はまなび学園や体育館は壊すこととなります。そうした場合に真ん中に建物をつくってしまうと、図書館の北側が使いづらい土地になってしまうのではないかと、これを我々は懸念しております。それについての図面ということになります。ここも北側が崖になっておりますので、今のまなび学園を壊した後に同じような建物を建てられない

んですね、もっと後ろに建てなければなりません。そのようなこともございました、このような図面を皆様に見せて、そういうことも考えているというのをお示ししたいというものでございます。

次が「JR用地（スポーツ用品店敷地）」でございます。スポーツ用品店の敷地につきまして、市が所有する公園等もありますので二階建てにすることは可能ですが、ここは先ほど来申しているように、JRの土地でありますので、それについての課題というのがございます。芝生広場をつくり、既存の60台のなはんプラザ東側の駐車場はそのまま、南側の駐車場は立体駐車場にしてはどうかという案でございます。これですと令和8年度にオープンできるのではないかと、ただしJRと土地に関してまだ交渉の必要があるというものでございます。一枚めくっていただいて、花巻駅南駐車場（北）に建てた場合です。この場所ですとなはんプラザの間の道路と、ホテルグランシェールとの間の道路がありまして、全体として二階建ては厳しいというように考えています。二階と一部三階建てかなということでございます。左側に特記事項として書いているのですが、仮に図書館を四階建てとして一階を駐車場にすることも計算してみましたが、一階の駐車台数は30台程度しかとれないんですね。これですと少しどうかなと我々は思っておりまして、やはり図書館は一階に、一関図書館のように一階駐車場、二階がワンフロアで閲覧スペースというのがありますけれども、できれば一階に閲覧できるスペースが欲しいというように思っているんですね。それはやはり、車椅子やベビーカーなど、必ずエレベーターで上に行かなければいけないということは避けたいというのが今の私たちの考えであります。

次に、道路の図面について御説明をいたします。まなび学園周辺の場合、道路に課題があると先ほど申しました。都市計画道路の城内大通り線、これは計画でまだない道路ですが、黄色いラインで示している道路があります。万代橋から合同庁舎への都市計画道路でございます。ただこれを整備するには、歩道はしっかりできるんですけども、新しい橋や交差点の改良などの課題がありまして、時間も経費も膨大になりそうだというものです。それで、現実的ではないというのが今の考えでございます、もしまなび学園周辺に図書館を建てた場合にどうしても課題になるのが赤いラインで示した幸橋、歩道がない部分があります。車道も狭く、決して広くはないという道路で、歩いて行く人、あるいは自転車で行く人は非常に危険です。このことからすると、都市計画道路ができれば一番良いのですがなかなかそれが難しいと考えておりまして、この赤いラインで示した部分、市道城内大通り一丁目線については、今の道路を改良して、歩道を片側にも新設するというのが、一番早く安くできるというような状況でありまして、片側になるかどうかという部分は未定ですが、歩道をつけて改良することはどうか

など考えておりました、ただしこれでも少し時間はかかるというような状況になっております。この道路がやはり課題でございまして、次のページに交差点等をいろいろ書いておりますが、これは説明を省略いたします。

次にワークショップについて資料No.5で御説明したいと思います。図書館ワークショップは、新花巻図書館整備基本計画を今年度定めたいというお話をしておりましたがその素案を策定するに当たりまして、市民ニーズを的確に捉えたいということで、開催したものでございます。前の中央図書館を建設する計画、今の総合花巻病院が出来た場所ですね、そちらにつくるときも平成23年度にワークショップを開催しておりました。ただし、やはり時間もたっておりますので、改めてワークショップを開催したというものでございます。

まず、高校生・20代編につきまして、第1回目に37人、第2回目に36人の方に参加いただいて、7月25日の土曜日と8月8日の土曜日に開催をいたしました。富士大学経済学部教授の早川光彦先生にアドバイザーとして御指導いただきましたが、早川先生は南相馬市の図書館や一関市の川崎図書館の開設に関わられておいでです、実務もされてきた方ですので、早川先生に全面的に御助言をいただきながら、このワークショップでも皆さんに御指導をいただいたというものでございます。第1回目は、早川先生の講演の後にグループワークによってアイデアを出してもらいまして、第2回目は、それに基づいて、「本・資料」、「サービス」、「環境・空間」、「場所」に整理して、アイデアをブラッシュアップし、班ごとにテーマを設けて全体発表していただきました。若い人たちの感性ですぐれたアイデアがたくさん出されたというふうに考えております。

一般編では、参加者は一般公募の方12名、公募段階では定員10名というふうにいたしました。12名の方々の応募がありまして、皆さんに参加いただいたというものでございます。そして各関係団体から推薦いただいた方々10名、そして、3回目からは、高校生・20代の方々も18名参加してもらいまして、名簿登録上は40名のワークショップというふうに開催いたしました。1回目は「図書館の可能性」ということで、富士大学の早川先生の講演と、この花巻図書館と東和図書館をワークショップの皆さんで見学していただきました。2回目は、「みんなでおさらい基本構想」ということで、平成29年に策定いたしました新花巻図書館整備基本構想について御説明をいたしまして、その後、図書館で「やってみたい」、「やれる」、「求められている」、「譲れない」などについてのテーマでグループワークをしていただきました。3回目は、前回のグループワークでのアイデアを、「本・資料・情報」、「運営・サービス」、「建物・環境・施設・家具」に分類し、それをもとに各班で重点を考え、発表をもらいまして、この回から高校生・20代も参加して、この回は高校生・20代が10名参加したというものでござ

ざいます。4回目が「つくってみようみんなのとしょかん」ということで、前回考えた重点をもとに、具体的なサービスを考えて、基本構想で定めていた整備方針、施設に関すること、蔵書資料に関すること、運営に関すること、サービスに関することに沿った形で、それを文章化してもらいました。5回目は、場所を考えるということでありまして、まず、市がこれまで検討してきた建設候補地等について、先ほど御説明した資料で参加者に説明いたしました。あわせて、1月29日に市議会で説明いたしました新花巻図書館複合施設整備事業構想も、そのときに公表した資料を皆様にお配りいたしまして、御説明いたしました。その後、皆様が考え皆さんで考えてきた、図書館の機能を生かすためにどのような場所に建設すべきか、7か所の候補地のメリットデメリットを考えながら、その候補地以外も考えていただきつつ検討していただいたというのが5回目でございます。

2ページ目、ワークショップの概要ですが、高校生・20代につきましては、例えば、「本・資料」として、「最新の研究論文が読める」、「大学のパンフレット、就活に関する資料が充実」などやはり若い人でないと気がつかないような点もございました。本以外の資料、CDやDVD、おもちゃなども充実、おもちゃを貸し出している図書館もある。ということでそのような意見もございました。あと、「サービス」については、「ちゃんとしたWi-Fiがある」、「ちゃんとした」というふうに御指摘をする方が複数あったのですが、そういうWi-Fiがある。あとは「電子書籍に対応する」、「話かけやすい司書がいる」。「環境・空間」については、「1人であるスペースと会話できるスペースがある」、やはり静かな図書館を求めるといような御意見もあるのですが、最近の例ですと、静かな部屋もきちんと整備しながら、会話したりグループで活動ができたりするような部屋もあるという例がありまして、そのような点で「1人であるスペースと会話できるスペースがある」などということも、若い人たちが出しておりますし、「飲食ができる空間がある」、「子どもとのびのびできる空間がある」、静かにしているだけではなくて、一緒に遊んだりできるような空間が、欲しいといような意見がありました。「場所」については、「駅が近くて交通の便がよい」「駐輪場が近い」、「電車・自転車・バスのアクセスがとてもよい」などの意見がございました。

一般編では、4回目で、新花巻図書館整備基本構想の整備方針に基づくサービス計画・内容を文章化してもらいましたが、その中の一例としては、施設に関することについては、やはり「Wi-Fiを完備」、「休憩のできるカフェスペース」、「利用者の年齢に応じて本棚の高さを変える」、「お年寄りや身障者等でも利用しやすいよう通路幅を広く」、「緑を感じる建築」、「緑色のカーテン」、「屋

上庭園」、「中庭を取り入れる」、「市民に広く開かれた知の倉庫を目指すため、ロボットやタブレット等の最先端技術を導入」、「S Lが見える1番のスポットとして整備」、「賢治の作品をモチーフとした花巻らしい図書館」などの具体的な意見がありました。

蔵書資料に関することでは、「実用的な本、ライトノベルや雑誌など世代のニーズに合わせた本を設置」、「利用者が選書した本を紹介するなど利用しやすく資料をリクエストしやすい環境」、「観光・市民生活・産業・歴史等『花巻市』を知るための情報の収集提供に努める」、「花巻へ訪れた旅行者が立ち寄って多くの偉人をワンストップで見ること、知ることを可能にする」、「いろいろな資料、ゲームや漫画などもほしい」、「優劣をつけず、バラエティー豊かな蔵書にする」、「読み上げ機能や拡大機能を含む障害があっても誰でも閲覧できる形で資料を提供」など、かなり具体的にアイデアを出していただいたというものでございます。

そして、第5回では、前回まで話し合ってきたサービス計画を実現できる立地場所について、先ほどから申しました資料を提示しまして、それぞれのメリットデメリットを考え、洗い出しながら、検討していただきました。まなび学園周辺ですとメリットは、「花巻小学校、花巻城が近い」、「まなび学園やこどもセンターなどと連携が図れる」、「緑が多く、自然を感じられる」、「静かで過ごしやすい」。デメリットとしては「周辺が暗く夜間が心配」、「道路が狭く入り組んでいる」、「バス利用が難しい」などがありました。駅周辺ですと、メリットとしては、「若い人の行動範囲にある」、「S L銀河が見られる」、「夜も周辺が明るい」、「観光客、車のない人にも利用できる」。デメリットとしては「駐車場が狭い」、「立体駐車場が怖いという人もいる」、「まなび学園と比べて周辺に緑が少ない」、「駐車場と図書館が離れている」などの意見がありました。まなび学園周辺や駅周辺のほかにも、イトーヨーカ堂東側空き店舗や、駅西口方面、材木町公園とか北東金属のグラウンドってわかりますかね、広場みたいのところ、東公園、新興製作所の跡地ですね、あと花巻市交流会館などの意見も出たところでございます。なお、先ほど申し上げましたけれども、まなび学園周辺と駅周辺の二つの区域は、立地適正化計画の都市機能誘導区域、国の補助金が得られる可能性があるということで候補地として挙げていたというものでございます。

次のページ、第5回のアンケートの結果について少し御説明をいたします。ワークショップの第5回には32名の方が参加されましたが、ワークショップ終了後にアンケート調査を実施いたしました。その中で、28名の方から回答をいただきました。アンケートの結果からは、回答があった参加者の年代をまず見ていただ

くと、10代から70代まで幅広い年齢層が参加して下さったということがわかります。10代6人、20代4人、30代1人ということで40代も4人、50代、60代、70代というものでございます。お住まいということだとほぼ花巻地域が多いわけですが、花巻地域が22人ということでございます。

図書館の建設場所はどこが望ましいかお聞かせください、一つだけ選択ということでお願いをいたしましたところ、まなび学園周辺では、総合花巻病院跡地が1人、まなび学園の体育館が6人、花巻営林署跡地が1人、まなび学園の前が2人ということでありまして、全部で10の方がまなび学園周辺を選ばれました。そのほかという方もいらっしゃいますが、花巻駅東口ということであれば、JR用地、スポーツ用品店の敷地が11人、花巻駅南駐車場が3人ということでありまして、合計14の方が花巻駅周辺を選んでいるという状況でございます。これに関連いたしまして、花巻市ではJR花巻駅に隣接した複合施設の構想を出しております、これがやはり話題というふうになっておりましたので、その用地について絞った質問をいたしました。このスポーツ用品店敷地について反対意見が出ていますということをおっしゃる、花巻駅周辺のこのスポーツ用品店敷地について御意見をお聞かせくださいという質問をして、JRの用地、スポーツ用品店敷地はそもそも反対であるという方は5人、JR用地50年の定期賃貸借でも賛成という方が12人、JR用地はよいが、定期賃貸借に反対であるという方が10人。この内訳として市が土地を所有することになれば良いという方は6人、分からないが2人、その他が1人と未回答が1人というものでありまして、これからいたしますと、JR用地、スポーツ用品店敷地自体について、絶対反対という方は5人、場合によっては賛成してもいいという方が22人でありまして、6人の方は借入ではなく所有することであればという条件をつけていることがわかります。

図書館の施設形態については、複合図書館が良いというのが18人、単独図書館が良いというのは9人、その他が1人。複合施設が良いと答えられた中では、やはりカフェが15人で多い状況でございましたし、そのほかを見ますとコンビニ、書店・文具店、イベントホール、スタジオキッチン、行政文化施設等が9人というような状況でございまして、今回のこのアンケート結果では、図書館に併設する賃貸住宅が良いと言った方は1人もいらっしゃらなかったという状況であります。

そもそも花巻駅の東側は人口が減少しておりまして、人の居住が少ない。なかなか元気にならない。一方で子育て世帯向けの住宅を民間事業者に上町、仲町に建てていただきましたが、満室になっておりまして、隣接する災害公営住宅の空いているところについても子育て世帯の方を募集いたしまして、応募者が多いという状況でございます。これらのことから、都市機能誘導区域内にあっても、条

件が良いのであれば住みたいという方は多いと捉えております。ただ、都市機能誘導区域内は土地代が高い。そういうこともあって、しかも駅東側については民間による住宅の建設の動きは見えていないという状況でして、これらを踏まえまして、駅前の希少な土地の有効活用、まちなかの活性化という観点から、賃貸住宅の併設という案を考えたわけでございます。今後については、アンケートが全てとは思っておりませんが、このようなアンケート結果も参考にして、賃貸住宅と複合化の案は取りやめることも考えていきたいと思っております。場所については、土地を市が所有することを条件とする方も含めて28人中22人が駅前にすべき、あるいは場合によっては駅前でも良いというふうに答えているわけですが、土地の所有については、JRとの話合いがそのような形で行くかどうか分かりません。また、スポーツ用品店敷地はそもそも反対という方も5人いらっしゃいますし、まなび学園、特に体育館が良いと言った方が一番多いのですが、我々としては、今後このワークショップの結果に基づいて、あるいはこのアンケートに基づいて、直ちに場所を決めるということではなく、市民各層、いろいろな話合いをしながら、場所についても、市民のコンセンサスを得ていくということについて、最大限の努力をしていきたいというように考えております。

今後それぞれの課題、その課題を解決する方法等について十分に話し合い、コンセンサスを得ていきたいと考えておりますけれども、先ほども少し申しましたがまなび学園体育館の場所に、今の体育館を壊してということになりますと、まなび学園の体育館は、今年はコロナの関係でそれほどではないのですが、大体1日あたり3団体、100%近い利用率になっておりまして、まなび学園の中にあるこどもセンター、風の子学園のお子さんも使っているという状況にあります。花巻市内のまちなかに人口に対して体育館が少ないのでつくってほしいという要望もございまして。そういう状況で、もし体育館を壊すということになりますと、それに代わる体育館を建設する必要があるのではないかと。場所をどうするか、費用をどうするか、財源をどうするかなども含めまして、利用者の方をはじめ市民の皆さんの御意見を聞いていかなければいけないというふうに思っておりますし、JRとの話し合いについても先ほど来申しておりますけれども、協議が整うかどうかというところはまだ分からない状況でありまして、建設場所の可能性については、さらに検討する必要があるというふうに考えております。

花巻市まちづくり基本条例に基づいて策定され運用されております、市の市民参画ガイドラインがありますが、そのガイドラインですと、図書館を建設する場合、基本計画もしくは基本設計の段階で、二つの方法による市民参画をすることが決まっております。花巻市はそれに基づいて、来年の3月か4月に市民参画をしたいというように、広報はなまき等でもお知らせしておりますし、委員会で

も、決められております。市民参画は、3月・4月にですね、パブリックコメント、市民説明会、この図書館協議会の意見を聞いて定めるというようにしております。もちろん、そのほかの教育委員会や、社会教育委員会議などの皆さんにも意見を聞きますが、二つ市民参画の手法をとらなければいけないというようになっておまして、その中でこの三つ、そのうちの一つが図書館協議会、というふうに定められております。その前に基本計画の少なくとも素案ができないと、参画手続に入れないというふうに考えておまして、今後、本日お示しした資料に基づいて市民との意見交換をしていきたいと思っております。意見交換会は11月下旬から始めたいと思っております、市民全般のほかに、各種団体等とも意見交換をしていきたいと思っておりました。その上で、基本計画の素案ができ上がれば、3月・4月に、市民参画の手順に入りたいという状況なのですが、なかなか市民の皆さんとコンセンサスが得られないということであれば、無理に3月・4月にこだわらずに、しっかり意見を聞きながら進めたいと思っております、やはり十分に意見を聞くことが大切と思っておりますので、少し遅れる可能性はあろうかなと思っております。ちなみに市民との意見交換会の日程ですが、11月26日、木曜日、18時30分から、なはんプラザで1回目をやりたいと思っておりますし、2回目以降は11月29日、日曜日、10時から、なはんプラザ、11月30日、月曜日、18時30分から、石鳥谷生涯学習会館、12月2日、水曜日、18時30分から、東和コミュニティーセンター、12月4日、金曜日、18時30分から、大迫定住交流活性化センターで、開催します。これは広報はなまき11月15日号に載る予定ですので、こちらのほうをご覧くださいと思います。5か所で市民との意見交換会を開催したいというように考えております。以上で説明を終わりますので、質問あるいは御意見等をいただければと思います。

(質 疑)

(○坂本会長)

ありがとうございました。本当に長い時間御説明いただきましてありがとうございます。それでは、質問ある方はどうぞ。はい、及川委員さん。

(○及川委員)

図書館ワークショップに参加した高校生は、学校の代表の生徒ですか。それとも、声をかけて、自分から参加したいと言った一般の生徒なのですか。

(○市川生涯学習部長)

市内の高校に、チラシやポスターで周知をお願いして、その中で自分たちで参加したいと言ってきた、自主的に参加した皆さんです。

(○及川委員)

わかりましたありがとうございます。

(○坂本会長)

ほかにございましたら。はい、堀合委員さん。

(○堀合委員)

堀合と申します。大変詳しい説明ありがとうございました。今日の図書館協議会の前に、11月8日の岩手日報に市の図書館構想について文章と円グラフの記事が載りましたが、実はこれを見て、JR用地が39.3%という数字に、それがいいとか悪いとかではなくて、前に市議会が9月に行ったアンケートではまなび学園が60%というような数値が載っておりまして、そのあと市民団体も似たような数値が載っておりました。実は私、2回ほど(団体の)意見交換会に参加させていただきましたが、そのときに私は石鳥谷在住なものですから花巻駅周辺が便利だと、大変交通の便が良いのではないかと申しましたが、このまなび学園周辺60%という、市議会が4地区で行った市民との意見交換会プラス社会教育委員、それから図書館協議会と意見交換した結果がそのように出ましたので、

「そうか。一番使う花巻地区の人たちはまなび学園周辺というように思っているんだな」と思って、私の中では、花巻駅にこだわらず、市民の思いがそういう方向なんだと受け止めておりましたが、この前の岩手日報の円グラフを見ましたら、花巻駅周辺が一番多くて40%、この違いとかずれというのは、これに限らず、単独か複合かについてや市有地か賃貸かということについてもずれがあるような、その辺をどのように市としてはとらえているのかということをお聞きしたいと思います。

(○市川生涯学習部長)

市議会の市民との意見交換会、あるいは民間の方々が行ったアンケートですね、質問の項目等にもよるとは思います。例えば、その状況や検討経過などを示しながら、その上で判断いただいていたかどうかということ、本来、私たちがきちんと情報を出して、その上でアンケート等をとれば良かったかもしれません。私たちの進め方に少しその辺りは問題もあったかなという点は、反省している点ではあるのですが、その点で、資料を出しながら、やったというのがワークショップでもありますし、ワークショップを年代層が各年代10代20代もありますし、それ以外、50代60代70代80代の方まで参加していただいて、どのような図書館が求められているか、必要と考えているかということグループで考えながら、まとめてきたわけですね。そしてその観点から、どの場所がふさわしいかということ、我々が考えた案も出しながら、その上で、それにこだわらずに、それ以外でもいいよということ考えていただいたわけなんですけれども、なかなかやはり、実はグループで意見をまとめて駅がいいといったグループは一つだけだったんです。まなび学園がいいと言ったグループも一つだったと記憶している

のですが、そのほかの、全部で7グループがありまして、ほかのグループは1か所に絞れなかったんですね。ここだったらメリットはこうだ、ここだったらこうだ、あるいは、まなび学園や駅前以外にこういう場所もあるのではないかとというように提案をしたグループもあります。そういうふうにはですね、我々が考えてきた資料もお出ししながら、グループの皆さん方に自分が欲しい図書館をみんなで議論した中で、「いやこの場所がいい」という、各年代層で考えてもらった結果だとは思っています。ただこれが全てではないというように思いますので、アンケートが全てではなくて、また、これらを含めまして関係団体や市民との意見交換をしていく上で、やはり、いろいろな考えがあろうかと思しますので、その意見を集約していきたいというように考えているところです。

(○坂本会長)

「帯に短し、たすきに長し」という言葉が、本当に説明を伺うとそうだなと思ってしまうですね。ここだと絞り切れない。そういう難しさがあるかと思うのですが、佛川委員さんいかがでしょうか。

(○佛川委員)

はい。なかなか難しい問題だと思っております。夏でしたか、図書館協議会に参加したときに、やはり場所が大事ということをお話ししました。私自身花巻小学校を卒業しまして、こちら（若葉町）に図書館が移転して、全然行かなくなったといいますか、そういうことがあったということを申し上げたことを今思い出したところで、どこに建ってもできてしまえば良いのではないかとこのように思います。どちらにしろ、「（図書館が）ここにあるんだ」と思えば、利用するほうで、あとは大丈夫ではないかなというように思います。以上です。

(○坂本会長)

はい。それでは、阿部委員さん、いかがでしょう。

(○阿部委員)

前回説明を聞いたときよりも、何か複雑に話が広がっていったのかなというように、たぶんいろいろな御意見を集約していくうちにこのような形になったのではないかとこのように思うのですが、率直な感想として、場所を決めるまでに、この後またもっと難しくなっていくような感想を受けながら話を聞かせていただきました。以上です。

(○坂本会長)

堀合委員さん。

(○堀合委員)

先ほど申しましたのでよろしいです。

(○坂本会長)

はい。それでは、中里委員さん。

(○中里委員)

このワークショップや市民意見交換会に参加される方というのは、たぶん花巻市民の中のごく一部になってしまうと思いますが、そのほかに例えば、子育て中で、参加できない方や出かけづらい方など、できるだけ多くの方が意見を言えるような工夫があるといいなと思いました。以上です。

(○市川生涯学習部長)

例えば、もし意見を聞きたいということであれば、我々で行って資料を説明することもできますので、言っていただきたいと思いますし、パブリックコメントという場面になりますと、ホームページや各施設で資料を公表して意見をいただくという場面もございます。その前に、個別に「ここはどうなんだ」、「いろいろこうするほうがいいんじゃないの」という意見は随時受けていますので、手紙でもメールでも何でも構いませんので、ぜひ御意見をいただければと思います。

(○坂本会長)

もしそういう方がいたら、教えてさしあげてください。

高橋委員さんお願いします。

(○高橋委員)

まず、委員長さんにお伺いしますが、私たち図書館協議会の立場は、この新しい図書館を建てるということに対して、どういう立場で話をしていけばよいのですか。まず一つそれを委員長さんにお伺いしたいと思います。それからもう一つは、いろいろな団体、審議会が出てきたり、それから任意の方々が出てきたりという形で、それぞれ意見を持って出てきているわけですけれども、なかなかそれではまとまっていかないと思います。何年たってもまとまらないことではないかなと思います。実際、花巻図書館を移転という話が出てきてから、もう10年ぐらい経つような気がしております。やはり市として、このぐらいの予算で、市の場所にこのぐらいの大きさを建てていきたいという、市のはっきりした立場のようなものがもう少しはっきり出てきてもいいのではないかと私は思って聞いておりました。それから、図書館を建てるに当たって大事なことは、市民の教育というのでしょうか、子どもから高齢者まで、みんなの文化度が上がってほしいと思うんですよね。そういう意味での図書館の役目や機能のようなものがあるのではないかと思いますので、それをしっかりしていかないと。東和には東和の図書館がありまして、石鳥谷は石鳥谷、大迫は大迫とそれぞれで活動しているわけですが、それぞれ図書館があるのに、ぽっと私たちがここに来て、花巻地区の図書館をどうしたらいいのでしょうかと聞かれても、何て答えていいのか。本当に図書

館協議会という委員の立場はどういう立場で、どういうことを発言するのか、その辺りをずっと疑問に感じていました。意見を聞かれて、果たして何と答えればよいのか。いろいろな意見があるので、私は一概に答えられないと思って、ここに参加しております。それぞれ立場が違うのではないかなというように感じております。

(○坂本会長)

花巻市立図書館協議会規則がございまして、その第2条に「協議会は、図書館の運営に関し、条例第2条に定める各図書館長の諮問に応じるとともに、図書館の奉仕につき館長に対して意見を述べる機関とする。」と明記されてございます。ですから、図書館のほうから諮問のものがあつたならばそれに答えるという形ですけれども、個々人に関しては、それぞれのお考えに基づいて、図書館の建設に関して御意見を言っていて、一向に構わないと思っております。

(○市川生涯学習部長)

そのように規則では定めておりますが、皆様方からは、やはり利用者の立場として、一般の方々とも違う部分もありますが、市民の方々の御意見を集約してほしいというわけではありません。利用者の立場として御意見をいただきたいですし、今度つくる花巻図書館は、中央図書館という位置づけをしましょうということを構想で定めております。そうした場合に、例えば地域館の利用者からして、中央図書館というものはどういうものがよいか。例えば、逆に言うと中央図書館にだけ司書を配置して、地域館は手薄にしてもらったら困るとか、そういうような観点もあるんじゃないですかある意味。検索は、中央図書館でしっかりしたものができるように、お金がかかる部分は、地域館ではなくてもいいけども、中央図書館に行けば、いろいろな新聞の検索ができるとかですね、そういう機能が欲しいとかですね、利用している方の観点から言える意見というのはあろうかと思っておりますので、そういう面で、それに限ったわけではないですけども、広い意味で、花巻の図書館、今度は全体の中央図書館という位置づけでいきますので、どういうふうにあるべきだというようなところも、最近の図書館にも当然関心をお持ちでいろいろ御覧になっていると思っておりますので、意見をいただければなというふうに思っているところです。

早くつくった方がいいのではないかというのは全くそのとおりで、早くつくりたいというのはあります。平成25年に厚生病院の跡地に中央図書館をつくるという構想があつたわけですが、そこから有害物質、ヒ素が出てきまして、それを撤去するのに数年かかるという状況になっていました。土を入れ替える必要があるということで、止まってしまったのですが、その中で先ほど申しました立地適正化計画という、国土交通省から新しい制度が出たんですね。まちなかに機能を集約

してコンパクトなまちをつくりましょうと。そうすれば補助金を出しますという国の政策なわけです。その計画を花巻市はつくりまして、そうすれば花巻病院をあの場所に移転するとお金が出るとかですね、あるいはこの図書館も、ここ（若葉町）から市中心市街地に戻せば補助金が出るということを考えながら、新たにまちづくりをしようというふうな動きになって、今に至っているという状況です。案として我々も花巻駅前に複合化の施設はどうだろうということで、出したわけですけれども、やはりこれで、かなり市民の皆様の関心も高まってきたのかなというふうに思っております。そういうこともあって、だんだん市民の関心が高まり、こういう中で良い計画をつくっていきたいと思いますし、できるだけ早く、あまり意見をまとめながらやっても難しいのではないかという御意見も分かりますが、やっていきたいと思っておりますので、御協力のほどお願いできればと思います。

（○坂本会長）

高橋委員さんよろしいですか。

（○高橋委員）

昔を言うと大変古い話になりますが、図書館は教育委員会が管轄で運営してきた時代もあったわけですね。そして、今度は生涯学習課というのができて生涯学習課に移管されたということがあるわけですけれども、ちょっとそこがはっきりわからないのですが、予算をもらう関係で、教育委員会が管轄しているよりも、生涯学習課で管轄しているほうが、取りやすいのかなと思って、今話を聞いております。意見をいちいち言うという私たちの立場なわけですが、皆さんの話をそれぞれ聞いていくよりも、もう少し「市としてこうしたい」、「市民をこのように導いていきたい」というような姿勢をはっきり示してほしいというのが私の願いでございます。今までこんなに吟味されて建物を建てたことはあまりないのではないかなと私は思っております。ですから、図書館だけがこれほど吟味されなければならないのは、我々図書館協議会にいる者たちにも何か責任があるのかなというように感じています。館長さんから出された議題について協議会で話し合うということより、もう少し市の姿勢をはっきりしてほしいということが委員としての願いでございます。

（○市川生涯学習部長）

わかりました。しっかり示しながら、やっていきたいと思いますが、図書館はやはり吟味すべき施設だろうと思います。

（○高橋委員）

公民館とか、会館はそう吟味しないですよ。

(○市川生涯学習部長)

そうですね。そういうことはありますけれども、やはり図書館利用者の層は、本当に小さいお子さんから多くの市民が利用しますよね。文化会館や公民館とは違う面もありますし、これからのまちづくりに欠かせない、人づくりに欠かせない、本当に重要な施設だと我々は思っておりまして、教育委員会から生涯学習課に所管が移ったからといって、教育に関して外れているわけではなく、厳密に言えば教育委員会の施設を補助執行という形で生涯学習部が執行しているという、むしろ説明がわかりづらくなってしまっていますが、そういう状況ですから予算が取りやすいということも特にありません。ただ教育長のところではなくて、市長部局でやっているわけですから、きちんと吟味してやりたい。図書館はこれからの花巻市の将来のために最も重要な施設だと思っていますから、やはりたくさんの方の意見を聞きたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

(○坂本会長)

ありがとうございました。では次、熊谷委員さんお願いします。

(○熊谷委員)

高橋委員さんがおっしゃったお話は、市のほうから「こういうようなもので、こういうところにつくりたい」というような、はっきりとした指針を出していただければやりやすいというお話だったかもしれませんが、今まで、図書館だけではないですけれども、全て行政主導で箱物をつくった時期がありましたよね。それで、できたものに対して、できあがってから、「使いにくい、あぁじゃない、こうじゃない」という、そういう呟きが市民の中にはあったと思います。できあがったときに、「これは大変使いにくい。何でもっと早く私たちにいろいろと話をしてくれなかったかなあ」というようなことはあったかと思ったり、私は現実になりました。でも今このように図書館をつくるということに対して、確かに図書館は各地区にございます。その図書館を充実させること、それは本当に大切なことだと思いますが、中央図書館が一つぼんとあって、どこにいる人たちも利用できる、それはもちろん私が大迫図書館を利用することもできるし、石鳥谷図書館を利用することもできる。なので、中央図書館に対して、旧花巻市民だけの図書館をこれから建てるのだというようには、私は全然思っておりません。東和でも石鳥谷でも大迫でも全ての人たちのための図書館ができるというように私は認識しております。私たちがいろいろと今話していることで、「きちんとこういうふうになりました」と言って図書館ができて、100%全ての市民が素晴らしいということは絶対にはないと思います。必ず「もっとあぁだった」、「こうだった」という話が出てくる。だから、どこで手を打つかということになります。そのために、今現実に私が利用することはもちろんですが、いずれ私

は死んでいく身です。これから生まれて育っていく子どもたちのことを考えながら、「やはり図書館はこうがいいな」ということを考えていくことが、私はこの協議会の役目ではないかなというように思います。市も大変だと思うんですよね。ここだと道路を拡張しなければならない、またここでお金がかかる。本来であれば平場の何もないようなところにボンとできあがればとてもいいのでしょうかけれども、そうではない。だから、「このところで、この場所だったらこういうデメリットがありますが、どうでしょうか」ということを部長さんが一生懸命お話しになって、本当に随分政治も変わったなと私は思っていました。なので、私たちが考えることは、例えば、小さな集団がそこを利用するのでなく、やはり広い目で見て、なるべくお金のかからない、花巻市が大変金持ちな市であればともかく、大変ですよ、お金が。そういうなかで、これだけというような大体決められた金額で国から補助が出る、よし、その補助をもらえばこういうものができるというふうなことを今考えているのであって、いずれにしろ、50年後、子どもたちが生まれて図書館を利用するときに、またきっと「こうだったら嫌だ」、「こうだったらいい」ということが出ると思います。そういう時にはまた何か変えられるようなことはあると思いますけれども、現在私たちが考えてこれが最善だけど、せめて50%ぐらいの人たちが賛成してくださればそれでいいのではないかというような思いで私はいるんですけどね。全員100%がいいということは絶対にないと思います。議員さんたちの中にもいろいろな意見があると思います。だからここで、市のほうに、私たちこの協議会はこういうような指針を持って話し合っていますよということを私たちは話せばいいのではないかなと思っています。

(○坂本会長)

ありがとうございます。佐藤委員さんお願いします。

(○佐藤委員)

図書館は無料貸本屋ではないわけなんです。所蔵する本はやはり厳しい目で、価値ある本を選んで、次の世代へ手渡していくという使命があるわけなんです。この中央図書館という位置づけということで、今考えていることを申し上げますと、前回の会議で配付された資料の令和2年度花巻市立図書館運営方針、事業計画の概要の中に、図書館資料の選定収集の内容がありましたが、児童書に着目しますと、花巻図書館は1,000冊、大迫図書館は110冊、石鳥谷図書館は250冊、東和図書館は300冊となっています。花巻図書館は、今、書庫がもう窮屈になっているのに、1年間にほかの図書館よりも、2倍も3倍もたくさん本を買えるわけですね。それを児童室に入り切らないから、古い本を閉架書庫に入れますね。その花巻図書館にとって古いという分類になる本が石鳥谷図書館では予算上

買えない、新しい本なんです。私は読み聞かせボランティアをしていますけれども、やはり子どもたちには良い本を紹介したいと思って、こういう、東京子ども図書館から出版されている基本蔵書目録を参考にするんですけども、それで図書検索をして、各図書館から本を請求するという方法をとっていて、それは私がそういう図書検索をして本を探して書庫にある本を請求するという、各館の閉架書庫にあっても、開架にある本と同時に利用できるということを学んだからできるんですけども、ほとんどの一般の、忙しい子育てをしている方々などは、もう開架にある本が全てだけれども、古い本、これはもう1950年から2010年までの中で選び抜かれた本が紹介してあって、その本が花巻管内にかなりあります。あるけれども、ほとんどが閉架書庫にあります。そうすると、良い本が子どもの側にはないということが、現実です。新花巻図書館ができるまで、これが何度も何度も繰り返されて、良い本が閉架に入る。とにかく本屋さんと同じように新しい本が図書館に並ぶというのであれば、このやり方は正しいのか、本当に本を選ぶ目を図書館の司書の方々が持っているのかという疑問さえ持つわけです。そして、私のような何の資格もないボランティアが、ただ奉仕の心で良い本を紹介したいというだけで、こういうものから本を選ぶことを月に1回やって、それで私はおはなし会のときに各館から借りた本を並べて（参加者に）どうぞ借りてくださいというふうに言っているんですけど、（参加者が）借りなければ、配送票が出て、すぐに戻ってしまうんです。せっかく閉架書庫から借り出してきてもすぐ戻ってしまう。戻ること、図書館司書の方は疑問を感じないだろうか、こんな良い本を花巻図書館から石鳥谷図書館にやっと取り寄せたのに、借りる人がないからといって、また閉架書庫に返すということに、何の罪悪感も感じないのか、責務を感じないのかとちょっとそういうことを思うんです。税金で買った本を書庫に眠らせておくということをどう考えているのか。地域格差、花巻図書館と田舎の図書館で新しい本を買うのにこんなに差があったら、そこに生まれて育った、どこに住んでも平等に良い本を与えていくということを、大人が配慮できなかったら、田舎の子は読む本が少なくていい、本と出会うチャンスが少なくていいと言われていたような感じがするし、本当に良い図書館をつくるということは、外観もそうだし、場所もそうだけれども、こういう志というものも必要なことだと思います。私はこれまで協議会委員として、この場でいろいろな意見を言いました。でもほとんどリターンがない、言って終わり。けれども今私が申し上げた意見に対しては、次回までに返事を下さい。閉架書架の利用を図書館としてどう考えているのか。地域の格差をどういうふうに平均化していくかということはどう考えているのかということに対しては、次回の図書館協議会までに返事が欲しいと思います。以上です。

(○坂本会長)

ありがとうございました。はい、梅原館長。

(○梅原花巻図書館長)

地域の格差と閉架書庫の問題、常々佐藤委員には御意見をいただいております、前回協議会のときにも閉架書庫や読み物のお話を伺いましたので、花巻図書館でもできることからということで、夏休みに合わせて閉架書庫にある児童書をお子さんたちに手に取って読んでいただくために、「司書のおすすめする児童書」として何冊か展示して、お子さんたちの目に少しでも触れるようにということで閉架の本を開架に出すような取組を始めているところですが、佐藤委員がおっしゃる本をすべて表に出すことはなかなか難しい状況です。

(○佐藤委員)

全部出せと言っているのではなくて、図書館の司書の方々がそういう志を持って、子どもの本を児童室に並べているのかどうか、閉架にあって、古いから、子どもは古い本は手に取らない、新しい本のほうを子どもが手に取るから新しいほうを並べるということでは、東京子ども図書館の人が何年もかけて日本全国の図書館に対して、「こういう本がいいですよ、こういう本を子どもにすすめてください」という経験上やっているものを全く花巻図書館では考えにも入れていない。「私たちが選んでいます。私たちが選んだ本を読んでください」と言っていることになってしまうでしょう。この東京子ども図書館の人たちが、何年もかけて蓄積されてきた子どもに対する本の考え方というものを、誰かが受け止めて、花巻でも広めてもらわないと、いつも花巻の管内の図書館にいる子どもたちは、価値ある本を、(東京子ども図書館の)この人たちが「価値ある本ですよ。大人の人たちもこういう本をすすめてください」と言っても、そこでストップしてしまって全く広まっていけないということを申し上げたいんです。

(○梅原花巻図書館長)

はい。東京子ども図書館の本については、司書も同じ本を参考資料として読んでいて、閉架書庫にある本の中で司書がおすすめしたい本ということで、開架のほうに展示して、お子さんたちに手に取ってもらうような取組を少しずつではありますが、進めておりますので、それも含めまして、閉架書庫にあるいろいろな本をもっとお子さんに手に取ってもらいたいところを、司書にもふだんから気を配って選んでもらうようにしています。この前の新花巻図書館のワークショップでも、やはり新しい図書館には専門的な司書が欲しいよねというようなお話をたくさんいただきましたので、司書の研修の部分だったり、ふだんから司書たちがみんな勉強していかなければいけないということだったり、ワークショップがとてもよい刺激になっています。ともすれば今まで、利用者さんが本を読ん

でいる時間を邪魔しないようにということで、一方向的な関わりが多かったところが、もっともっとコミュニケーションを取りながら双方向的に関わっていったほうがよいと職員の意識が変わったこと、閉架書庫にある児童書のうち良い本を選んでもっと開架に出していったほうがよいという話も、前回の協議会を含め以前から佐藤委員さんにお伺いしていることを司書に伝えておりました、その部分も意識が変わってきていますので、引き続き取り組ませていただきたいと思います。

(○坂本会長)

はい。どうぞよろしくお願ひいたします。それでは、及川委員さん。

(○及川委員)

今回の新花巻図書館の計画ですけれども、いろいろ難しいことが多いと改めて勉強になりました。私としては、やはり子どもたちに「何であんなところに」とか、後悔しないような図書館づくりをしていければいいなど、大人として、納税者として思っております。以上です。

(○坂本会長)

ありがとうございます。小笠原委員さんお願いします。

(○小笠原委員)

公募委員の小笠原です。私も及川さんの意見と同じくやはり本当に花巻の文化の拠点となるような中央図書館が一日も早く完成されることを望みます。その点で、やはり市役所側の提案、この表をつくることも大変だったと思いますが、一般市民から見ると、案がいっぱいあり過ぎて、どれも厳しいんだなというように思ってしまったんですね。だから、もう少しコスト面と建設スケジュールを精査して、市としてはこの二つというか、「これがおすすめです」と言っていれば、すごく選びやすいし、それに寄っていただけるんですね。そこら辺も市としてリーダー性を発揮して、これだというものをもっと提案していただいてもいいかなと思います。よろしくお願ひします。

(○坂本会長)

はい、市川部長。

(○市川生涯学習部長)

計画素案を作りましてパブリックコメントをしていく段階では、やはりある程度絞った段階になると思いますが、現段階では、まだたくさん意見を出してですね、広めに意見を聞きながらというふうに考えておりますし、皆様方から今言われたとおり、やはり案がたくさんあり過ぎると分からないということも分かりますので、その辺りは御意見としてお聞きしながら、含めて検討していきたいと思ひます。ありがとうございます。

(○坂本会長)

2番目の議題は、このあたりでよろしいでしょうか。それでは事務局のほうに進行をお返しいたします。

4 その他（久保田花巻図書館副館長）

ありがとうございました。それでは4番目のその他ということで、何でも構いませんけれども、もしお話があればと思いますが、よろしいですか。

では事務連絡としてですが、次回3回目の協議会は、2月を予定しておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

5 閉 会（久保田花巻図書館副館長）